

SAW 3736

PTO/SB/21 (09-04)

Approved for use through 07/31/2006. OMB 0651-0031

U.S. Patent and Trademark Office; U.S. DEPARTMENT OF COMMERCE

Under the Paperwork Reduction Act of 1995, no persons are required to respond to a collection of information unless it displays a valid OMB control number.

**TRANSMITTAL
FORM**

(to be used for all correspondence after initial filing)

Total Number of Pages in This Submission

61

Application Number

09/682,627

Filing Date

October 1, 2001

First Named Inventor

Masakazu Karita

Art Unit

3736

Examiner Name

Brian Scott Szmaj

Attorney Docket Number

31.001-AG

ENCLOSURES (Check all that apply)

Fee Transmittal Form



Fee Attached



Amendment/Reply



After Final



Affidavits/declaration(s)



Extension of Time Request



Express Abandonment Request



Information Disclosure Statement



Certified Copy of Priority Document(s)

Reply to Missing Parts/
Incomplete ApplicationReply to Missing Parts
under 37 CFR 1.52 or 1.53

Drawing(s)



Licensing-related Papers



Petition

Petition to Convert to a
Provisional ApplicationPower of Attorney, Revocation
Change of Correspondence Address

Terminal Disclaimer



Request for Refund



CD, Number of CD(s) _____

☐ Landscape Table on CD

After Allowance Communication to TC

Appeal Communication to Board
of Appeals and InterferencesAppeal Communication to TC
(Appeal Notice, Brief, Reply Brief)

Proprietary Information



Status Letter

Other Enclosure(s) (please identify
below):

Remarks

SIGNATURE OF APPLICANT, ATTORNEY, OR AGENT

Firm Name

Judge & Murakami IP Associates

Signature

Printed name

James W. Judge

Date

July 7, 2006

Reg. No.

42,701

CERTIFICATE OF TRANSMISSION/MAILING

I hereby certify that this correspondence is being facsimile transmitted to the USPTO or deposited with the United States Postal Service with sufficient postage as first class mail in an envelope addressed to: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450 on the date shown below:

Signature

Typed or printed name

Date

This collection of information is required by 37 CFR 1.5. The information is required to obtain or retain a benefit by the public which is to file (and by the USPTO to process) an application. Confidentiality is governed by 35 U.S.C. 122 and 37 CFR 1.11 and 1.14. This collection is estimated to 2 hours to complete, including gathering, preparing, and submitting the completed application form to the USPTO. Time will vary depending upon the individual case. Any comments on the amount of time you require to complete this form and/or suggestions for reducing this burden, should be sent to the Chief Information Officer, U.S. Patent and Trademark Office, U.S. Department of Commerce, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450. DO NOT SEND FEES OR COMPLETED FORMS TO THIS ADDRESS. SEND TO: Commissioner for Patents, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450.

If you need assistance in completing the form, call 1-800-PTO-9199 and select option 2.

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

App. No. : 09/682,627 Confirmation No. 2280
Applicant : Masakazu Karita
Filed : October 1, 2001
T.C./A.U. : 3736
Examiner : Brian Scott Szmaj
Docket No. : 31.001-AG
Customer No. : 29453

Honorable Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Submission of Documents in Claiming Priority Right
Under 35 U.S.C. § 1.119(b)

Sir:

To complete the claim made for the benefit of earlier foreign filing dates on filing the application identified above, Applicant herewith submits a certified copy of **Japanese Patent Application No. 2000-298524, filed September 29, 2000**, and of **Japanese Patent Application No. 2001-103764, filed April 2, 2001**.

Respectfully submitted,

Date:

July 7, 2006


James W. Judge
Registration No. 42,701

JUDGE & MURAKAMI IP ASSOCIATES
Dojima Building, 7th Floor
6-8 Nishitemma 2-Chome, Kita-ku
Osaka-shi 530-0047
JAPAN

Telephone: **305-938-7119**
Voicemail/Fax: **703-997-4565**

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 4月 2日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-103764

出 願 人

Applicant(s):

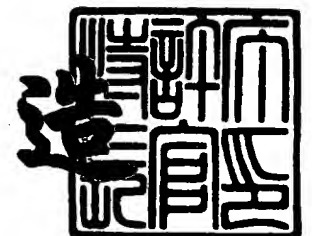
荻田 昌和

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年11月 9日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



【書類名】 特許願

【整理番号】 P1491KA01

【提出日】 平成13年 4月 2日

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明者】

 【住所又は居所】 岡山県赤磐郡赤坂町大屋 3 9 - 2

 【氏名】 荻田 昌和

【特許出願人】

 【識別番号】 500456165

 【住所又は居所】 岡山県赤磐郡赤坂町大屋 3 9 - 2

 【氏名又は名称】 荻田 昌和

【代理人】

 【識別番号】 100104581

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 宮崎 伊章

【先の出願に基づく優先権主張】

 【出願番号】 特願2000-298524

 【出願日】 平成12年 9月29日

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 049456

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 0014879

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 体調調整具、及び、その製造方法並びに、その使用方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本と、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、

及び

(C) 形状保持材と、

を有する体調調整具であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

ことを特徴とする体調調整具。

【請求項 2】

線材巻き付け磁石本数が 4 本以上である請求項 1 記載の体調調整具。

【請求項 3】

棒磁石が板磁石である請求項 1 または 2 記載の体調調整具。

【請求項 4】

線材及び形状保持材が銅線である請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の体調調整具。

【請求項 5】

線材及び形状保持材が非磁性で且つ導電性を有する 1 本の連続した線材である請求項 1 乃至 4 いずれかに記載の体調調整具。

【請求項 6】

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本と、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、

及び

(C) 形状保持材と、

を有し、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

体調調整具の製造方法であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面に前記線材を右巻きに螺旋状に配し、

次いで、前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とを交互に隣接配置し、

更に、その外側に形状保持材を配したことを特徴とする
体調調整具の製造方法。

【請求項 7】

(A) 長さ方向に沿って、表側がN極、裏側がS極である棒磁石複数本と、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、

及び

(C) 形状保持材と、

を有し、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

体調調整具の製造方法であって、

前記 (B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と前記 (C) 形状保持材が、同一の非磁性で且つ導電性を有する連続した1本の線材を用いて、

n (複数) 本の棒磁石の内、1本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、該

磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

次いで、該線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 2 本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

次いで、2 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 3 本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

更に、3 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 4 本目の磁石の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付け、

同様にして残りの磁石を前記線材で巻き付け、

次いで、n 本の線材巻き付け磁石が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とを交互に隣接配置させ、筒状組み立て体を作成し、

引き続き、n 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を用いて、前記筒状組み立て体の形状を保持するために該筒状組み立て体の外側を螺旋状に巻回することを特徴とする体調調整具の製造方法。

【請求項 8】

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本と、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、

及び

(C) 形状保持材と、

を有し、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

体調調整具を用いて、体調を調整する方法であって、

前記筒状空間の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体

調調整具に方位磁石を近づけた際に、N極方向を指すのが強い側の先端を身体に当てることを特徴とする体調調整具の使用方法。

【請求項 9】

請求項 1 乃至 5 のいずれかに記載された体調調整具の筒状空間に六方晶系物質又は石灰質物質もしくは前記物質を含有する物質を有する挿入体を挿入したことを特徴とする体調調整具。

【請求項 1 0】

請求項 9 に記載された体調調整具において、

(a) 当該体調調整具を映像として映像記録媒体に記録し、その印刷物を作製する、もしくは当該映像記録媒体記録された映像を当該映像記録媒体に少なくとも 1 回重畳して記録し、その印刷物を作製する。

(b) 当該体調調整具より挿入体を抜脱し、前記印刷物で当該挿入体を包んだ後前記印刷物を燃焼し、もしくは当該挿入体の近傍にて前記印刷物を燃焼する。

(c) 当該挿入体を再び挿入する。

を含む操作を少なくとも 1 回以上行った体調調整具。

【請求項 1 1】

請求項 9 又は 1 0 に記載された体調調整具を映像として記録した映像記録媒体もしくはその印刷物。

【請求項 1 2】

請求項 1 1 に記載された映像記録媒体に当該映像記録媒体記録された映像を少なくとも 1 回重畳して記録した映像記録媒体もしくはその印刷物。

【請求項 1 3】

請求項 9 又は 1 0 に記載された体調調整具より発せられる音響を記録した音響記録媒体。

【請求項 1 4】

請求項 1 3 に記載された音響記録媒体に当該音響記録媒体記録された音響を少なくとも 1 回重畳して記録した音響記録媒体。

【請求項 1 5】

請求項 9 又は 1 0 に記載された体調調整具を、又は請求項 1 1 乃至 1 4 に記載

された映像記録媒体、もしくはその印刷物、又は音響記録媒体を身体に当てることを特徴とする体調調整具の使用方法。

【請求項 1 6】

請求項 9 又は 1 0 に記載された体調調整具を、又は請求項 1 1 乃至 1 4 に記載された映像記録媒体もしくはその印刷物、又は音響記録媒体を部屋の四隅に配置することを特徴とする体調調整具の使用方法。

【請求項 1 7】

請求項 1 1 又は 1 2 に記載された映像記録媒体に記録された映像もしくは当該映像記録媒体による印刷物を目視することを特徴とする体調調整具の使用方法。

【請求項 1 8】

請求項 1 3 又は 1 4 に記載された音響記録媒体に記録された音響を聴取することを特徴とする体調調整具の使用方法。

【請求項 1 9】

請求項 9 又は 1 0 に記載された体調調整具を電力線集中箇所に向けて配置し、且つ／又は請求項 1 1 乃至 1 4 に記載された映像記録媒体もしくはその印刷物又は音響記録媒体を電力線集中箇所に近傍に配置し、当該電力線集中箇所より供給される電力により電化製品を使用する体調調整方法。

【請求項 2 0】

請求項 9 又は 1 0 に記載された体調調整具を電力線集中箇所に向けて配置し、且つ／又は請求項 1 1 乃至 1 4 に記載された映像記録媒体もしくはその印刷物又は音響記録媒体を電力線集中箇所に近傍に配置し、当該電力線集中箇所より供給される電力により冷蔵庫を使用し、当該蔵庫に食品を保存する食品保存方法。

【請求項 2 1】

請求項 9 又は 1 0 に記載された体調調整具を内燃機関に向けて配置し、且つ／又は請求項 1 1 乃至 1 4 に記載された映像記録媒体もしくはその印刷物又は音響記録媒体を当該内燃機関の燃料タンクに貼着する燃費改善方法。

【請求項 2 2】

請求項 9 又は 1 0 に記載された挿入体を水に浸す水質浄化方法。

【請求項 2 3】

請求項 9 又は 1 0 に記載された挿入体を浴槽に入れて入浴する入浴方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は体調調整、特に電磁波障害による体調不具合を調整することができる体調調整具、及び、その製造方法並びに該体調調整具の使用方法に関する。

【0002】

【従来技術】

最近、コンピュータ、携帯電話、電子レンジ等々の電子機器の普及がめざましく、これら電子機器から発生する電磁波の人体への影響が心配されている。

パソコンのブラウン管等から発生する電磁波を遮断するために電磁波遮断エプロン等が市販されているが、磁場はブラウン管画面から真っ直ぐ放射されているのではなく、放射源から楕円をいくつも描くようにして、上下から回り込んでくるので電磁波を遮断する効果が不十分である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、体調不具合を訴える人、特に、電子機器に囲まれ電磁波を浴びやすい環境の中で仕事をしている人で、体調不具合を訴える人に対して有効な体調調整具、及び、該体調調整具を製造する方法並びに該体調調整具の使用方法を提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため鋭意検討した結果、本請求項 1 の発明は、

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本と、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、

及び

(C) 形状保持材と、

を有する体調調整具であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに

螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている
を特徴とする体調調整具である。

【0005】

棒磁石の断面形状として、磁石同志のN極とS極とが隣接可能で前記筒状空間が形成可能であれば良く、長方形、正方形、円形、楕円形等が適していて、特に、前記筒状空間を形成する上で長方形が望ましい。

【0006】

非磁性で且つ導電性を有する線材として、銅、アルミニウム、銀、金、プラチナ等が用いられる。

【0007】

体調調整具の前記筒状空間としてその断面が円形、楕円形に限らず、略三角形乃至多角形の筒状空間も含む。

線材巻き付け磁石の本数が3本以下の場合は、体調調整具の前記筒状空間を形成するのが困難で、4本以上が望ましい。

【0008】

また、線材の螺旋巻き方向は、左巻きの場合は効果がなく、右巻きとする。その配置は、磁石の片端から他端までを、磁石表面を1本の線材で、1層巻きで、隣り合う線材間の間隙を極力少なくするように、配されているのが望ましい。なお、線材の太さは、1mm程度あれば良く、太さの上限は隣接する磁石同志のN極とS極とが良く吸引できるか否で判断され、吸引できない太さでは、該調整具の作成が困難で、その効果も得られない。

【0009】

また、形状保持材としては、該体調調整具の前記筒状空間を維持して該体調調整具の形状を保持できれば材質は問わず、その形状は筒形、線状、テープ状のいずれでも良いが形状保持、及び効力増強性の点で、導電性を有する金属製の線材が望ましい。前記導電性を有する金属製の線材として、銅、アルミニウム、銀、

金、プラチナ等を用いる。なお、前記形状保持材として前記線材と同一の線材である 1 本の連続した線材で配する構造も本発明の体調調整具として含まれる。

【 0 0 1 0 】

本請求項 6 の発明は、該体調調整具を製造する方法の発明であって、

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本と、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、

及び

(C) 形状保持材と、

を有し、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

体調調整具の製造方法であって、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面に前記線材を右巻きに螺旋状に配し、

次いで、前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とを交互に隣接配置し、

更に、その外側に形状保持材を配する

ことにより体調調整具を製造する。

なお、本請求項 7 の発明は、該体調調整具を製造する方法の発明であって、前記形状保持材として前記線材と同一の線材である 1 本の連続した線材を使用した発明で、この場合、形状保持性が優れている。

【 0 0 1 1 】

本請求項 8 の発明は、

(A) 長さ方向に沿って、表側が N 極、裏側が S 極である棒磁石複数本と、

(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、

及び

(C) 形状保持材と、

を有し、

前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、

前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、

その外側に形状保持材が配されている

体調調整具を用いて、体調を調整する方法であって、

前記筒状空間の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた際に、N極方向を指すのが強い側の先端を身体に当てることによる体調調整具の使用方法である。

【0012】

人が電磁波を浴びることによって、体調不具合が生じる理由、は、次のように考えられる。

本来、人体の赤血球は、プラス、血管内壁もプラスに帯電しているのが正常な状態である。従って、赤血球は血管内壁をスムーズに流れ体調を維持するようになっている。

電磁波は、大気をプラスイオン化する。そして、大気中のプラスイオンが増加することによって、人の体内の電気系にプラスイオンを浸透させ、人体内のプラスイオンを増加させる。

その結果、血管の外壁に、電磁波がプラスイオンを送りつけ、血管の内壁が反転して、マイナスイオンに帯電する。これにより、プラスに帯電している赤血球の血管中での流れが阻害され、体調不具合が生じることとなる。

【0013】

更には、本発明に係る体調調整具の筒状空間に六方晶系物質（例えば、水晶、石英、黒鉛、石墨、方解石、長石、アメジスト、トルマリン、ラピスなどの鉱石や石炭、木炭など）や石灰質物質（珊瑚や貝殻など）を挿入することにより、体調調整の効果を高めることができる。六方晶系物質や石灰質物質を含有する物を挿入してもよい。例えば、鉛筆は黒鉛を原料としているので、体調調整具に鉛筆

を挿入すると体調調整効果を高めることができる。

【 0 0 1 4 】

また、六方晶系物質や石灰質物質などによる挿入体を挿入した体調調整具（以下、挿入体体調調整具という。）を映像として記録した映像記録媒体、もしくはその印刷物、更に当該映像記録媒体に同じ映像を重畳して記録した映像記録媒体、もしくはその印刷物にも体調調整効果がある。挿入体を挿入した体調調整具より発せられる音響を記録した音響記録媒体、更に当該音響記録媒体に同じ音響を重畳して記録した音響記録媒体にも体調調整効果がある。

【 0 0 1 5 】

使用方法としては、前述のとおり患部に当てる方法が一般的であるが、他に、映像記録媒体（同じ画像が重畳されたものを含む）に記録された映像や当該映像記録媒体からの印刷物を目視する方法や音響記録媒体（同じ音響が重畳されたものを含む）に記録された音響を聴取する方法もある。また、映像記録媒体やその印刷物又は音響記憶媒体を部屋の四隅に配置し、当該部屋に居れば、体調調整効果を得ることができる。

【 0 0 1 6 】

また、請求項 1 0 に係る発明は、

（a）挿入体体調調整具を映像として映像記録媒体に記録し、その印刷物を作製する、もしくは当該映像記録媒体記録された映像を当該映像記録媒体に少なくとも 1 回重畳して記録し、その印刷物を作製する。

（b）挿入体体調調整具より挿入体を抜脱し、前記印刷物で当該挿入体を包んだ後前記印刷物を燃焼し、もしくは当該挿入体の近傍にて前記印刷物を燃焼する。

（c）当該挿入体を再び挿入する。

を含む操作を繰り返すことにより、体調調整効果が高められた体調調整具である。

【 0 0 1 7 】

また、挿入体体調調整具（映像記録媒体やその印刷物又は音響記憶媒体を含む）を配電盤等の近傍に配置すると、当該配電盤等より供給される電力を使用する。

電化製品を使用することにより体調を調整することができる。また、当該電力を使用した冷蔵庫に食品を保存すると、保存期間が長くなる。

【0018】

更には、挿入体体調調整具を内燃機関に向けて配置したり、燃料タンクに映像記録媒体やその印刷物又は音響記憶媒体を貼着したりすることで、その燃費を改善することができる。

【0019】

また、挿入体自体を水に浸すことにより、水質を浄化することもできる。当該挿入体を浴槽に入れて入浴すると、血行が促進され、入浴後も温かさが長続きする。

【0020】

【発明の実施の形態】

図に基づき本発明の体調調整具を説明する。図1は本発明に係る体調調整具1の概略斜視図、図2は同概略平面図、図3は同概略底面図である。

図中、2は板磁石、3は板磁石2の長さ方向Rに沿って、表側4がN極、裏側5がS極である板磁石2の長さ方向Rの一端Hから他端Tまで該磁石表面を非磁性で且つ導電性を有する銅製の線材であって、右巻きに螺旋状に巻き付けられている。前記巻き初め部の一端Hおよび巻き終わり部の他端Tは、共に該磁石の長さ方向の両端より若干長さ方向内側に入った箇所にある。

【0021】

前記線材巻き付け磁石6は9本を断面略三角形の筒状空間7を形成するようにN極面NとS極面Sとを交互に隣接配置させている。

前記のように配置させた構成物の外側に形状保持材として銅製線材8を配したものが本発明の体調調整具である。

【0022】

図4に基づき本発明の体調調整具の製造方法を説明する。図4(a)は本発明に係る体調調整具を構成する板磁石22で、その長さ方向に沿った表側44がN極、裏側55がS極である。図4(b)は前記板磁石22の表面を非磁性で且つ導電性を有する線材33で右巻きに螺旋状に巻き付けた線材巻き付け磁石である

図 1 の体調調整具を製造するには、板磁石 2 2 を 9 本用意して、各板磁石について、図 4 (b) に示すように長さ方向 R に沿って、磁石 2 2 の表面を非磁性で且つ導電性を有する線材 3 3 で右巻きに螺旋状に巻き付けることによって、線材巻き付け磁石 6 6 を 9 本作成する。なお、前記板磁石 2 2 の表面を前記線材 3 3 で右巻きに螺旋状に巻き付けるとは、図 4 (b) に示すように、長さ方向 R に沿って、該磁石の長さ方向の上端側から反時計回りに該磁石の下端側に線材 3 3 を螺旋状に巻着付けることである。次いで、該線材巻き付け磁石 6 6 の N 極と S 極とを隣接させ、組み合わせる。その結果、図 1、図 2、図 3 に示すような断面概略三角形の筒状空間 7 を有する線材巻き付け磁石組立体（図示せず）ができる。該組立体は、そのままでは、外力を受けると形状が崩れて前記筒状空間が保持できなくなる。これを防ぐため前記組立体の外側を形状保持材で覆って体調調整具を完成する。形状保持材としては、該体調調整具の前記筒状空間を維持して該体調調整具の形状を保持できれば材質は問わず、その形状は筒形、線状、テープ状のいずれでも良いが形状保持、及び効力増強性の点で、導電性を有する金属製の線材を通常、用いる。

【 0 0 2 3 】

体調調整具を用いて、体調を調整する方法としては、次の方法を採用。

該体調調整具の前記筒状空間の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた際に、N 極方向を指すのが強い側の先端を身体に当てる。

身体への当て方は、その部位として頭上、後頭部、額、足の裏、脇、腕等々で、身体に直接接するように 5 分程度当てる。5 分経過後も使用を継続することで、更に気持ちが良くなり、そのまま眠ってしまう場合もある。但し、N 極方向を指すのが弱い側の先端を身体に当てても体調調整の効果は得られない。

【 0 0 2 4 】

図 5 に、本発明に係る体調調整具の他の実施の形態を示す。但し、図 5 では、線材および形状保持材を省略して磁石のみの配置を示していて、図 5 (a) は板磁石 9 を 1 0 本、図 5 (b) は板磁石 1 0 を 1 6 本を用いた体調調整具の概略平

面図である。なお、図 5 (a)、図 5 (b) の×部 C Z は、該体調調整具の前記筒状空間の中心点である。

【 0 0 2 5 】

本発明に係る体調調整具の製造方法の他の実施の形態（請求項 7 の発明に相当）を図 6（概略平面図）に基づき説明する。図 6 は、本発明に係る体調調整具の前記図 5 (a) に該当する。但し、図 5 (a) では、線材および形状保持材を省略しているが、図 6 では、示している。

すなわち、図 6 では、前記線材と前記形状保持材とは、同一の非磁性で且つ導電性を有する連続した 1 本の線材を使用している。但し、両者の配置位置を明確にするため、便宜上、前記線材を実線で、前記形状保持材を破線で示している。

図 6 において、1 1 1 は体調調整具、2 2 0、2 2 1、2 2 2、2 2 3、2 2 4、2 2 5、2 2 6、2 2 7、2 2 8、2 2 9 は板状棒磁石、3 3 3 は前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されている線材、8 8 8 は前記形状保持材である。前述したように線材 3 3 3 と形状保持材 8 8 8 とは、非磁性で且つ導電性を有する連続した 1 本の線材である。

【 0 0 2 6 】

図 6 の体調調整具 1 1 1 を製造する場合、前記 2 2 0 ～ 2 2 9 の板状棒磁石 1 0 本の内、1 本目の板状棒磁石 2 2 0 の長さ方向の一端から他端まで、該磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 H は板状棒磁石 2 2 0 の表面を線材 3 3 3 が巻き付ける際の巻き初め部である。

次いで、該線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 2 本目の板状棒磁石 2 2 1 の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 a は板状棒磁石 2 2 0 から板状棒磁石 2 2 1 への移行部である。

次いで、2 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 3 本目の板状棒磁石 2 2 2 の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状に

なるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 b は板状棒磁石 2 2 1 から板状棒磁石 2 2 2 への移行部である。

更に、3 本目の線材巻き付け磁石の巻き終わり部分の線材を 4 本目の板状棒磁石 2 2 3 の長さ方向の一端から他端まで、磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付ける。

なお、図 6 において、3 3 3 c は板状棒磁石 2 2 2 から板状棒磁石 2 2 3 への移行部である。

同様にして残りの棒磁石 2 2 4、2 2 5、2 2 6、2 2 7、2 2 8、2 2 9 を順に線材で巻き付け、

次いで、1 0 本の線材巻き付け磁石が筒状空間を形成するように N 極面と S 極面とを交互に隣接配置させ、筒状組み立て体を作成する。

【0 0 2 7】

なお、前記 1 本目の棒磁石の長さ方向の一端から他端まで、該磁石表面を線材が右巻きで螺旋状になるように巻き付けた後、前記 2 本目の棒磁石に前記 1 本目の巻き終わり部分の線材を巻き付ける際は、次の点を配慮する。

すなわち、前記 1 本目の棒磁石と前記 2 本目の棒磁石とがお互いに磁力で引き合う面同志が隣接するとともに、前記 1 本目の棒磁石 2 2 0 と前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 との前記移行部 3 3 3 a の長さを配慮する。また、前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 に線材を巻き付ける際は、前記 1 本目の棒磁石 2 2 0 を隣接させると線材巻き付け操作が困難になるので、線材巻き付け操作に支障のないように前記 1 本目の棒磁石と 2 2 0 前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 の位置を離した状態で、巻き付ける。例えば、前記 1 本目の棒磁石 2 2 0 と前記 2 本目の棒磁石 2 2 1 を並列させず、直列に配置して線材巻き付けを行う。以下、残りの棒磁石 2 2 2、2 2 3、2 2 4、2 2 5、2 2 6、2 2 7、2 2 8、2 2 9 に線材を順に巻き付ける際も同様の配慮をする。

【0 0 2 8】

次いで、前記筒状組み立て体の形状保持のため、前記筒状組み立て体の周囲に線材材 8 8 8 を螺旋状に巻き付ける場合、棒磁石 2 2 9 の線材巻き付け終了部 3

3 3 T を巻き付けスタート部とし、前記筒状組み立て体の周囲を螺旋状に、前記筒状組み立て体の長さ方向の一端から他端まで巻き付けることによって、本発明の体調調整具が完成する。

【 0 0 2 9 】

【実施例】

以下に、電子機器から発生する電磁波の影響と思われる症状のある人に対して、断面形状が 1 0 m m × 2 0 m m、長さ 6 0 m m で、その長さ方向に沿った表側が N 極、裏側が S 極の板磁石、線材が太さ 1 . 2 m m の銅線、形状保持材が太さ 1 . 2 m m の銅線を使用した図 1 の体調調整具で、その使用効果を観た。なお、図 1 の体調調整具の筒状空間 7 の中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた際に、N 極方向を指すのが強いのは、図 3 に示す底面側で、この面を身体に当てた。

被験者 A の場合：

毎日、職場で、パソコンに囲まれ、本人もパソコンを使用している。この職場でパソコンが使用されるようになって以来、体調不具合をきたし、最近では、微熱が続く状態であった。

体調調整具を頭の額寄りの部分と足の裏の土踏まずの部分に、それぞれ当てた。その結果、使用後、約 5 分経過時点で、使用した部分に冷氣と安らぎを感じると共に微熱がなくなり体調が良くなった。

被験者 B の場合：

毎日、職場で、パソコンを使用している。以前から身体の片側の腎臓が腫れていて違和感になやまされていて、パソコンを使用するようになってから、更に肝臓にも重い感じを感じるようになっていた。

体調調整具を頭の額寄りの部分と足の裏の土踏まずの部分に、それぞれ当てた。その結果、使用後、約 5 分経過時点で、使用した部分に冷氣と安らぎを感じると共に前記症状がほとんど出なくなった。

被験者 C の場合：

冷え性で、冷房に弱く、また、職場で、パソコンを使用している。

体調調整具を頭の額寄りの部分と足の裏の土踏まずの部分に、それぞれ当てた

。その結果、使用後、約4分経過時点で、体温が暖かくなるのを感じると共に身体がリラックスするのを感じた。

被験者Dの場合：

携帯電話とパソコンを使用している。左肩が常に、凝って困っていた。

体調調整具を左肩と右足の外側の踝付近の部分に、それぞれ当てた。その結果、使用後、約4分経過時点で、前記症状が無くなった。

被験者Eの場合：

携帯電話とパソコンを使用している。目が疲れて困っていた。

目を閉じて、体調調整具を瞼の部分に当てた。その結果、使用後、約4分経過時点で、前記症状がほとんど感じられ無くなった。

被験者Fの場合：

脚立の上から転落して左肘を捻挫して肩にも痛みを感じていた。

体調調整具を患部に当てた。その結果、使用後、約10分経過時点で、患部付近が暖かくなるのを感じて、前記症状がほとんど感じられ無くなった。

【0030】

上記、被験者A、B、C、D、Eのケースについて、その後、以前の症状が再発した場合、本発明の体調調整具を使用することで、体調不具合が前記のように改善された。また、被験者Fのように、電磁波による体調不具合でない場合にも本発明の体調調整具の効果が認められることが分かった。

【0031】

本発明の体調調整具が体調不具合解消に対して、効果がある理由は、現段階では、次のように考えられる。

電磁波を浴びることによって、増加した人体内のプラスイオンを本発明の体調調整具を当てることによって、減らす作用が働き、その結果、電磁波を浴びることによって、血管の内壁が反転して、マイナスイオンに帯電していた血管内壁が本来の状態のプラスに帯電するようになり、その結果、赤血球は血管内壁をスムーズに流れ体調を回復するようになるからである。

【0032】

なお、本発明の体調調整具を使用する場合、自然環境に恵まれた場所、例えば

、ログハウス等で用いるのが良い。電磁波の飛び交う場所、例えば、都会のビル街等での使用は、効果が希釈される。このような場合、貝殻等の自然物を素手で握って本発明の体調調整具を使用することで、効力が増すことができる。

【 0 0 3 3 】

更に、本発明の体調調整具を六方晶系物質や石灰質物質による挿入体を挿入することで、体調調整効果を高めることが可能となる。六方晶系物質には、水晶、石英、黒鉛、石墨、方解石、長石、アメジスト、トルマリン、ラピスなどの鉱石や石炭、木炭などがあり、石灰質物質には珊瑚や貝殻などがある。また、これらの物質を含有する物（例えば、黒鉛を原料とする鉛筆が挙げられる。）を挿入体とすることでも同様の効果が得られる。

【 0 0 3 4 】

図 7 は挿入体として水晶 9 を使用し、例体調調整具 1' の筒状空間 7' に水晶 9 を挿入した例である。なお、図 7 において、体調調整具 1' は、個々の板磁石や線材、形状保持材を省略されて、略円筒として図示されている。また、筒状空間 7' への挿入体の挿入は、できるだけ密になるように挿入する方がよく、密であるほどその効果は大きくなる。

【 0 0 3 5 】

体調調整具 1' は、断面形状が 7 mm × 1 0 mm、長さ 5 0 mm で、その長さ方向に沿った表側が N 極、裏側が S 極の板磁石を 2 1 本、円筒状に配置し、線材が太さ 1. 2 mm の銅線、形状保持材が太さ 1. 2 mm の銅線を使用したものである。その筒状空間 7' は直径が約 7 0 mm の円柱状となっている。

【 0 0 3 6 】

挿入体を挿入した挿入体体調調整具であっても、使用方法は前述のとおりである。すなわち、患部等に直接当てることで、体調を整えることができる。

【 0 0 3 7 】

また、直接患部等に当てることなく、挿入体体調調整具を映像として記録した媒体等、もしくは、挿入体体調調整具から発せられる音響を記録した媒体等によっても、体調調整の効果が得られる。

【 0 0 3 8 】

挿入体体調調整具を映像としての記録する方法は、カメラ（従来の光学式によるもの）、デジタルカメラ、ビデオカメラのいずれによる方法でもよい。したがって、映像記録媒体は、カメラであればフィルム、デジタルカメラであればフロッピーディスク、MOやCD-ROMなどの電子記憶媒体、ビデオカメラであればビデオテープなどが好適である。これらの映像記録媒体を患部に当てることより体調調整効果が得られる。

【0039】

また、前記記録媒体より複製される印刷物等も効果がある。すなわち、カメラであれば写真、デジタルカメラであればプリンタによる印刷物、ビデオテープであれば静止面のビデオプリンタによる印刷物なども体調調整効果がある。

【0040】

一旦、映像として映像記録媒体に記録されれば、体調調整効果が残存していると考えられる。すなわち、フロッピーディスク、MDやビデオテープなどの上書きができる映像記録媒体であればよい。先ず、かかる映像記録媒体に挿入体体調調整具を記録し、その後、同じ画像を重畳すれば、更に効果を増大することができる。

【0041】

画像の重畳方法は、パソコン等の画像編集ソフトウェアを用いても可能である。先ず、デジタルカメラなどでデジタル化された画像ファイルを画像編集ソフトウェアで開き、当該画像をコピー・ペーストにより少なくとも1回重畳し、当該画像ファイルを保存する。このようにして作成された画像ファイルには増大された体調調整効果がある。また、かかる画像ファイルに好みの画像を重畳し、パソコンのいわゆる壁紙として使用した場合、パソコン使用者は体調調整効果を維持しつつ、好みの画像を壁紙として使用できる。

【0042】

挿入体体調調整具から発せられる音響を記録する方法は、テープレコーダやミニディスクレコーダなどがある。音響記録媒体として、カセットテープやミニディスクなどが好適である。

【0043】

音響として記録した場合においても、体調調整効果が残存していると考えられる。すなわち、カセットテープやミニディスクなどの上書きができる音響記録媒体であればよい。まず、かかる音響記録媒体に挿入体体調調整具から発せられる音響を記録し、その後、同じ音響を重畳すればよく、このように同じ音響が重畳して記録された音響記録媒体には、増大された体調調整効果がある。

【0044】

もちろん、映像記録媒体（同じ画像が重畳されたものを含む）に記録された映像やその印刷物を目視することで体調調整効果が得られ、音響記録媒体（同じ音響が重畳されたものを含む）に記録された音響を聴取することで体調調整効果が得られる。

【0045】

映像記録媒体とその印刷物、または音響記録媒体を部屋の四隅に配置し、その部屋に居ると体調調整効果が現れる。

【0046】

他の方法によっても、体調調整効果を増大することができる。すなわち、請求項10に記載された体調調整具で、以下の操作を繰り返すことで実現できる。

（a）挿入体体調調整具を映像として映像記録媒体に記録し、その印刷物を作製する、もしくは当該映像記録媒体記録された映像を当該映像記録媒体に少なくとも1回重畳して記録し、その印刷物を作製する。

（b）挿入体体調調整具より挿入体を抜脱し、前記印刷物で当該挿入体を包んだ後前記印刷物を燃焼し、もしくは当該挿入体の近傍にて前記印刷物を燃焼する。

（c）当該挿入体を再び挿入する。

【0047】

具体的に説明する。まず、（a）においては、前述のように、画像編集ソフトウェアにより、挿入体体調調整具の画像を少なくとも1回重畳し、重畳された画像を印刷することにより実現できる。（b）においては、挿入体を抜脱し、挿入体の近傍にて前記印刷物を燃焼する。もしくは、印刷物で挿入体を包んだ後に燃焼してもよい。（c）において、再び挿入体を体調調整具に挿入する。（a）～

(c) の操作を数回繰り返すことにより、体調調整効果が増大する。もちろん、挿入体体調調整具を映像として映像記録媒体に記録し、当該映像の印刷物も体調調整効果がある。

【0048】

前記(a)において、画像の重畳を5回行い、(a)～(c)の操作を5回繰り返して行った挿入体体調調整具による具体的な体調調整効果について述べる。

被験者Gの場合：

被験者Gは、日常的にパソコンを使用しているので、肩こりなど疲れを感じる事が多かった。挿入体体調調整具をデジタルカメラで記録した画像に他の画像を画像編集ソフトウェアにより重畳した画像（以下、重畳画像という。）をパソコンのいわゆる壁紙として使用したところ、パソコンを長時間使用しても疲れを感じなくなった。

以下に示す被験者H～Kの実施例は、被験者Gが使用した重畳画像の印刷物を寝室の四隅に配置した例である。

被験者Hの場合：

被験者Hは、便秘で悩んでいたが、当該印刷物を寝室の四隅に配置するように、便秘症状に改善が見られた。

被験者Iの場合：

被験者Iは、胃痛で悩んでいたが、胃痛の症状が和らいだ。

被験者Jの場合：

被験者Jは、常々疲労ぎみであったが、疲労回復効果が見られた。

被験者Kの場合：

被験者Kは、夜間の頻尿で悩まされていた。夜中に4、5回以上の排尿を余儀なくされ快眠できる状態ではなかったが、排尿は1回程度で済み、快眠できるようになった。

【0049】

挿入体体調調整具による被験者G～Kに対する効果は、重力波によると体調調整効果とよく似ている。したがって、挿入体体調調整具（映像記録媒体とその印刷物、音響記録媒体を含む。以下、挿入体体調調整具等という。）より多量の重

力波が発生し、被験者の体調が調整されたものと推定されるが、挿入体体調調整具より重力波が発生しているかどうかは今のところ確認できていない。

【0050】

したがって、挿入体体調調整具等を電力線集中箇所の近傍に配置すれば、重力波が当該電力線集中箇所より分散した電力線を伝播し、当該電力線から供給される電力にて電化製品を使用することによって、体調を調整することができる。電力線集中箇所とは、電力線が集約されている配電盤や分電盤などで、単に電力線が集中している箇所でもよい。

【0051】

挿入体体調調整具を使用する場合、電力線集中箇所に直接当たるように配置する方法が好ましい。物理的に困難である場合は、できるだけ近くから電力線集中箇所に向けて配置することが望ましい。向ける方向は、挿入体体調調整具の筒状空間の長手方向が当該電力線集中箇所に向く方向である。

【0052】

映像記録媒体とその印刷物、音響記録媒体を使用する場合、電力線集中箇所や近傍の壁に貼着する方法が好ましい。この場合、記録媒体や印刷物の面の法線方向がなるべく電力線集中箇所に向く様に貼着すると、より効果が現れる。

【0053】

かかる方法では、テレビやパソコンを使用すると、画像が鮮明になり疲労を感じることなく使用できる。また、暖房器具（電気ヒーターや電気ストーブなど）や冷房器具（エアコンなど）を使用すれば、当該器具が設置された部屋に居ると体調調整効果が現れる。また、当該方法で供給される電力で冷蔵庫を使用し、当該冷蔵庫に食品を保存すると、保存期間が長くなる。例えば、従前、もやしは2日程度しか保存できなかったが、7日以上保存が可能となった。

【0054】

挿入体体調調整具等は、人体のみならず内燃機関にも効果がある。挿入体体調調整具を内燃機関（例えば、自動車のエンジン）に向けて配置したり、重畳画像の印刷物を当該内燃機関の燃料タンクに貼着したりすることにより、当該内燃機関の燃費を改善することができる。

【0055】

挿入体体調調整具を使用する場合、内燃機関に直接当たるように配置する方法が好ましい。通常物理的に困難であるので、できるだけ近くから内燃機関に向けて配置することが望ましい。向ける方向は、挿入体体調調整具の筒状空間の長手方向が当該内燃機関に向く方向である。また、映像記録媒体とその印刷物、音響記録媒体を使用する場合、内燃機関の燃料タンクに貼着する方法が好ましい。紙などに印刷物であれば、好適である。

【0056】

国産乗用車（ガソリン車）に対して、燃料タンクに前述の重畳画像の印刷物4枚を貼着し約500km走行したところ、燃費が9.34km/lから10.59km/lになり以前より約13%改善された。更に、挿入体体調調整具を助手席よりエンジン方向に向けて配置して約500km走行したところ、燃費が10.85km/lになり約16%改善された。

【0057】

また、国産乗用車（ディーゼル車）に対しても、燃料タンクに重畳画像の印刷物4枚を貼着し、挿入体体調調整具を助手席よりエンジン方向に向けて配置して約500km走行したところ、10km/l未満であった燃費が11.3km/lに改善された。また、加速が体感的によくなったと感じられた。

【0058】

挿入体には水質を改善する効果がある。例えば、水道水に前述した水晶を浸すことにより水質が改善される。具体的に定性的には飲むとまろやかに感じられる。定量的には残留塩素を測定する試薬（オルトリジン）で確認できる。水晶を浸す前は、水道水に前記試薬を投入すると淡黄色に変化し残留塩素の存在が確認されたが、水晶を浸し取り出した後は試薬を投入しても色が変わらないので残留塩素が除去できたことが確認できた。なお、水晶を浸すのは4、5秒程度でよく、極めて短時間で水質が浄化できる。

【0059】

また、当該挿入体を浴槽に入れて入浴すると、血行が促進され、入浴後も温かさが長続きする効果もある。

【0060】

【発明の効果】

以上の通り、本発明は、体調調整、特に電磁波障害による体調不具合を改善する体調調整具（電磁波を浴びることによって、増加した人体内のプラスイオンを減らすことにより体調を調整する調整具）を提供するとともに、その製造方法並びに、その使用方法を提供することができる。また、六方晶系物質や石灰質物質などとの併用により、更に体調調整効果を高めることが可能となった。人体のみならず、内燃機関についても効果があり、燃費を改善することが可能となった。また、水質浄化、食料保存や入浴方法にも効果があった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る体調調整具の一実施形態を示す概略斜視図である。

【図2】図1の体調調整具の概略平面図である。

【図3】図1の体調調整具の概略底面図である。

【図4】（a）本発明に係る体調調整具を構成する板磁石の概略斜視図である。

（b）本発明に係る体調調整具を構成する線材巻き付け磁石の概略斜視図である。

【図5】（a）本発明に係る体調調整具（線材および形状保持材を省略）の他の例を示す概略平面図である。

（b）本発明に係る体調調整具（線材および形状保持材を省略）の他の例を示す概略平面図である。

【図6】本発明に係る体調調整具の製造方法の概要を説明するための該体調調整具の概略平面図である。

【図7】本発明に係る水晶を挿入した体調調整具（挿入体体調調整具）の概観斜視図である。

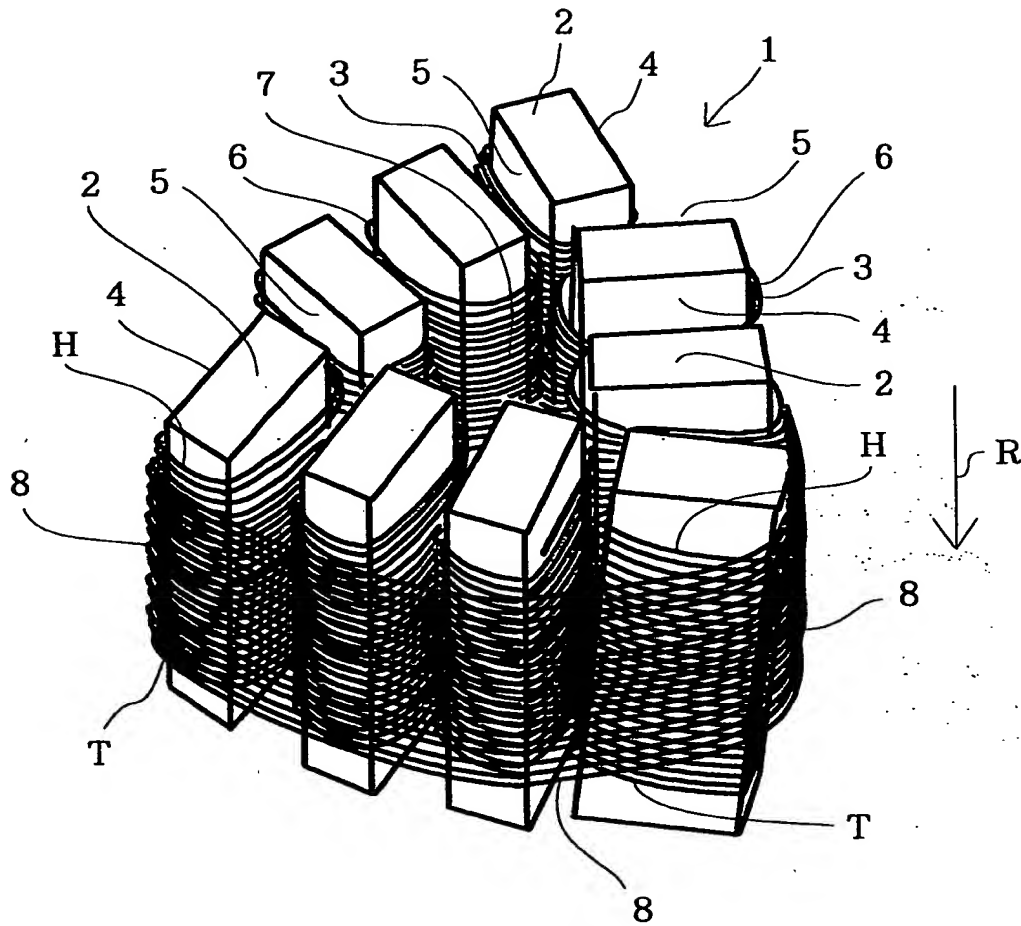
【符号の説明】

- 1、1' 体調調整具
- 2 板磁石
- 3 線材

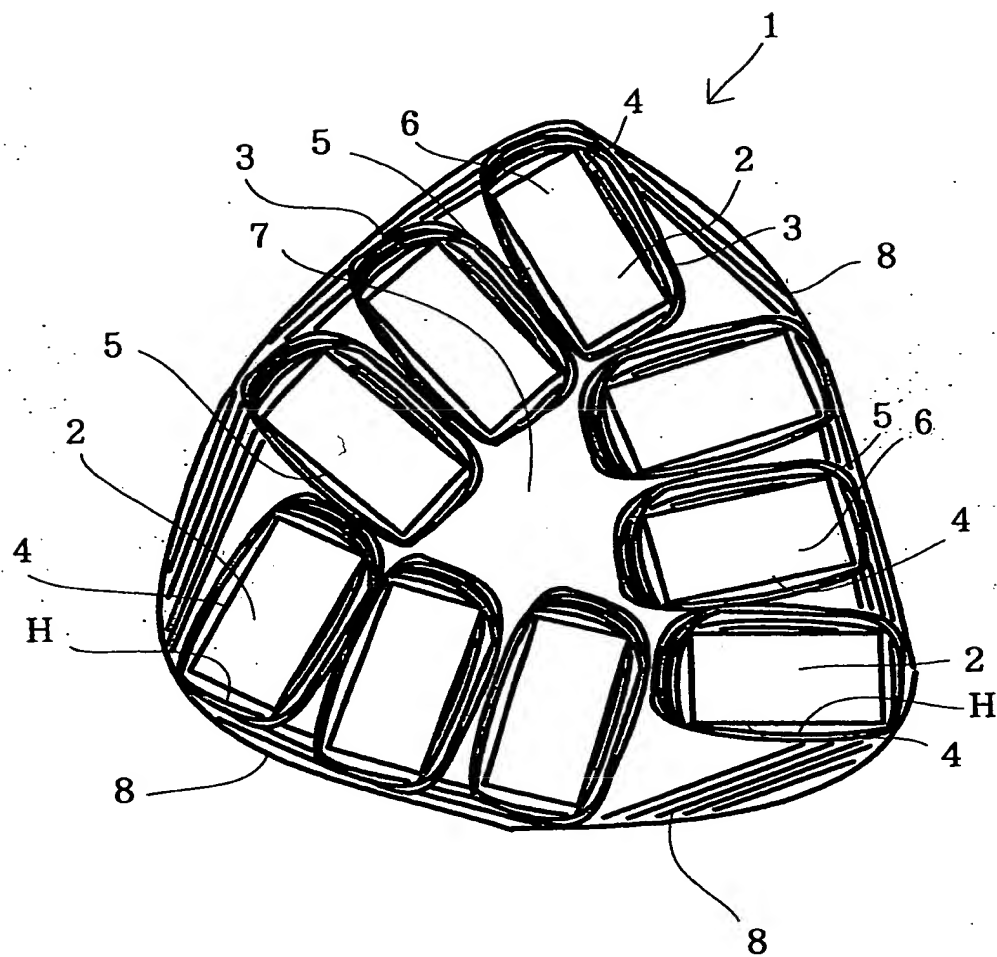
- 4 板磁石の表側
- 5 板磁石の裏側
- 6 線材巻き付け磁石
- 7、7' 筒状空間
- 8 形状保持材
- 9 水晶
- 66 線材巻き付け磁石
- CZ 筒状空間の中心点

【書類名】 図面

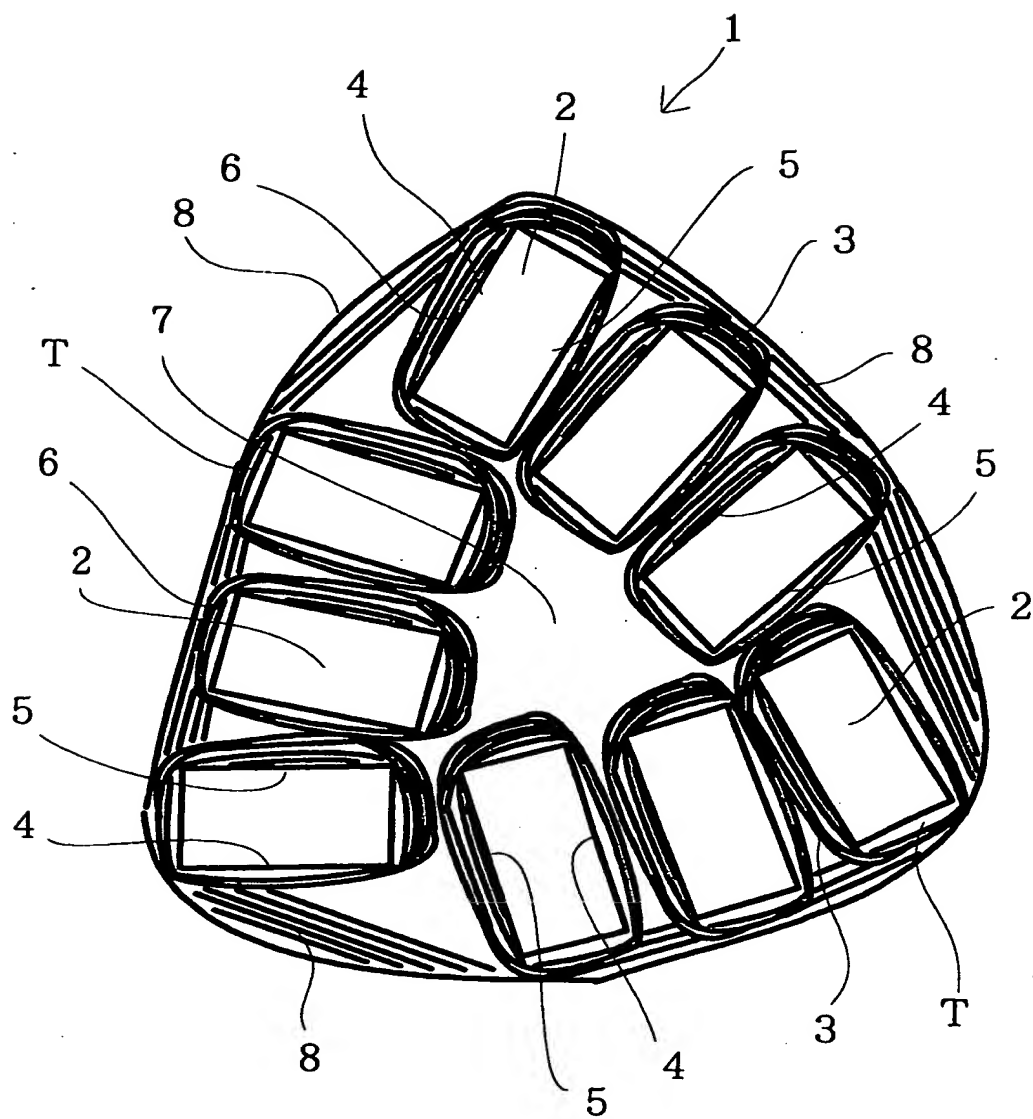
【図 1】



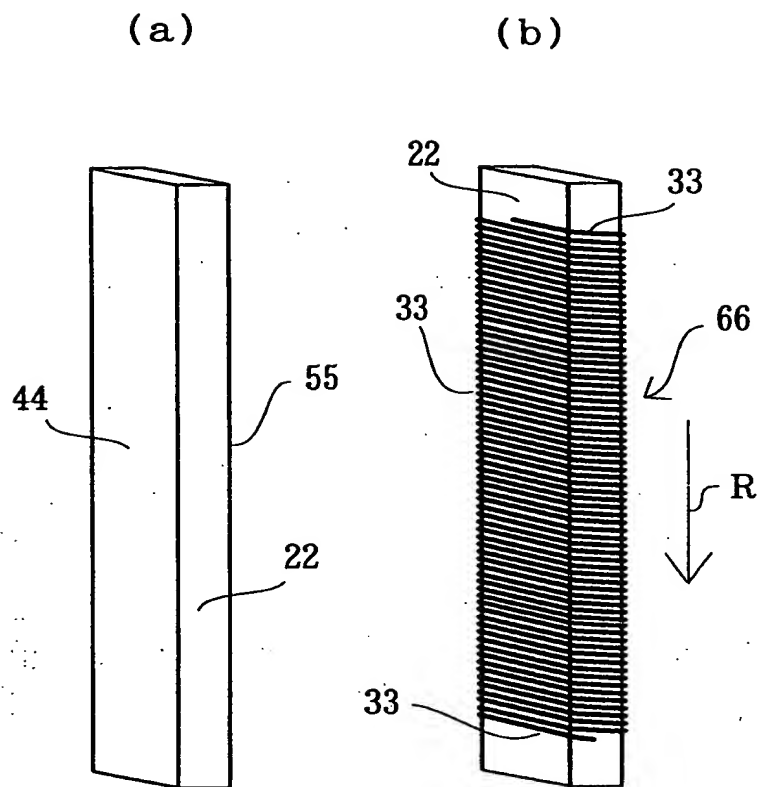
【図2】



【図3】

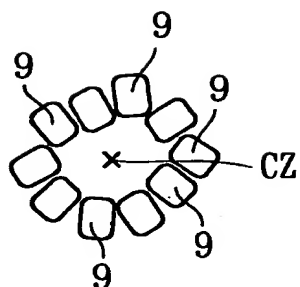


【図 4】

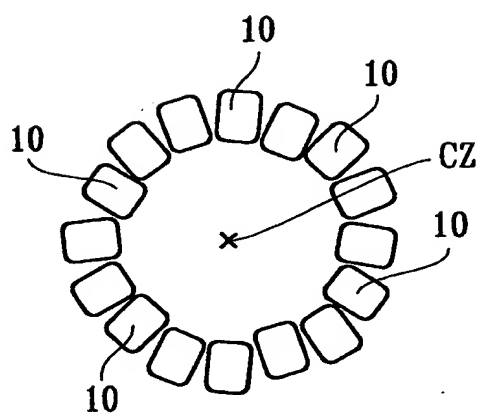


【図 5】

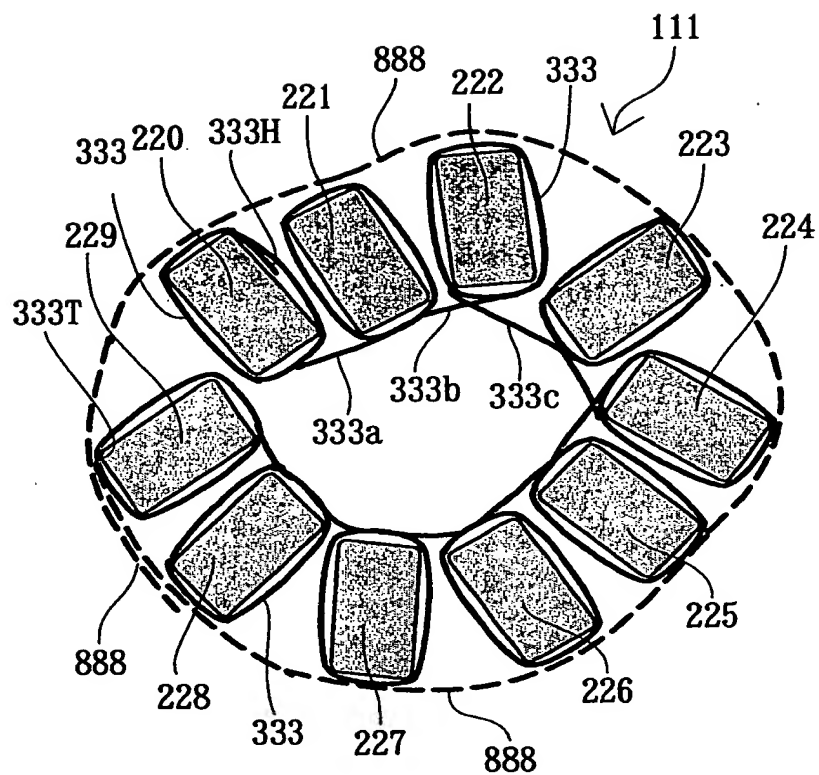
(a)



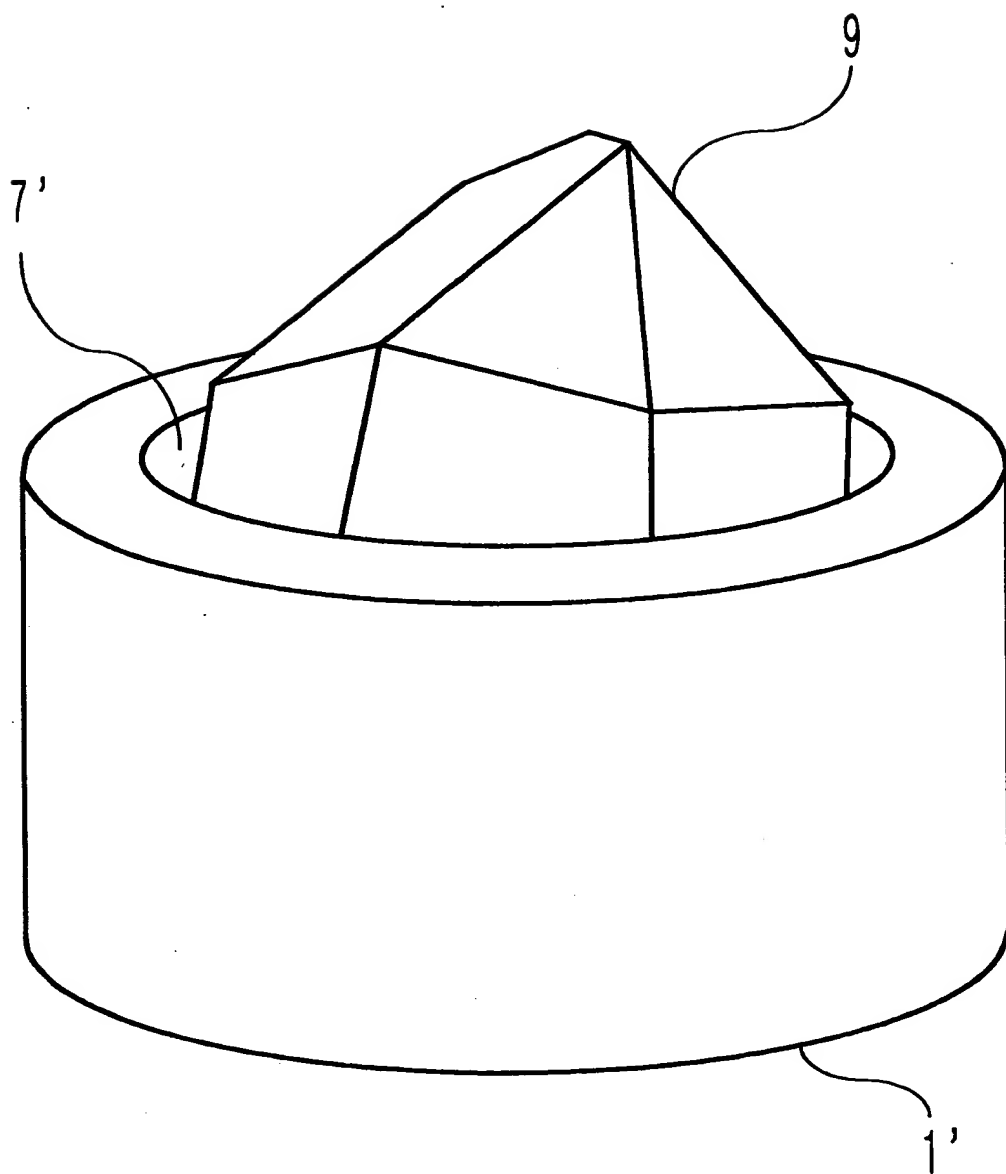
(b)



【図 6】



【図7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 体調調整、特に電磁波障害による体調不具合を改善することができる体調調整具、及び、その製造方法並びに該体調調整具の使用方法を提供する。

【解決手段】 (A) 長さ方向に沿って、表側がN極、裏側がS極である棒磁石複数本と、(B) 非磁性で且つ導電性を有する線材と、及び(C) 形状保持材とを有する体調調整具であって、前記棒磁石の長さ方向の一端から他端までの該磁石表面を前記線材が右巻きに螺旋状に配されていると共に、前記線材巻き付け磁石複数本が筒状空間を形成するようにN極面とS極面とが交互に隣接配置され、その外側に形状保持材が配されている体調調整具であって、前記筒状中心点を通り該体調調整具の長さ方向に平行な直線に沿って、体調調整具に方位磁石を近づけた際に、N極方向を指すのが強い側の先端を身体に当てる。また、六方晶系物質等と併用することにより、効果を増大することが可能となる。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [500456165]

1. 変更年月日	2000年 9月29日
[変更理由]	新規登録
住 所	岡山県赤磐郡赤坂町大屋39-2
氏 名	苅田 昌和